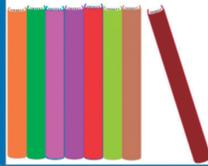




# 大人が絵本を 第75回 絵本の日アワード in



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子\*

小児歯科医師 濱野 良彦\*\*

\* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)  
\*\* 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

## 社会問題となった「SNS」をどう使う？

「生きる力」、「自分で生き抜く力」を備えましょ  
うと訴えなければならぬのは、子どもばかりで  
はありません。大人同士の呼びかけ合いも必要な  
時代です。

新型コロナウイルスによって人と人との間に社会  
的距離が生まれましたが、それをSNSなどのツール  
で補えることは現代の利点とも受け止められていた  
ところ、大きな落とし穴がありました。SNSによる  
誹謗中傷が原因とみられる芸能人の悲しい事件が  
相次ぎ、ただただ愕然とするばかりです。

コロナ禍で、SNSの功罪が明るみになったので  
す。学生たちは出校しなくても講義を受けられるよ  
うになり、会社では毎日出勤せずとも、人との距離を  
保つテレワークを導入する企業も出現しています。  
また個別にリモート飲み会を行ったり、Twitterや  
Instagram、Facebookなどを通して自分の好きな物事  
を文章や写真で投稿したりして、上手にコミュニ  
ケーションをとり、心の安定を保つツールにもなっ  
ているようです。

その一方、SNS等プラットフォームサービスの普  
及が、匿名のまま不特定多数に向けて特定の個人を  
誹謗中傷するメッセージを発信できてしまうこと  
で、大切ないのちを奪う痛ましい事案が発生し、い  
ま深刻な社会問題となっています。この問題に総務  
省の有識者会議は、2021年の法改正を目指すと  
いいます<sup>1)</sup>。

必要なときにたくさんの人から情報を収集でき、  
人とつながってられるSNSは、このコロナ禍で  
は重宝されています。大変優れたツールですので、  
適切な利用を前提に有意義な利用を心掛けたいもの

です。

## 「絵本のチカラ」に、「SNSのチカラ」に

私たち医療法人元気が湧くは、「絵本のチカラ」  
「SNSの良いチカラ」を発信するため、「絵本の日  
アワード in FUKUOKA 2020授賞式」をYouTube  
で発表しました。



ビブリオキッズの創館と同じ2012年に制定され  
た「絵本の日」の活動の一環として創設した「絵本  
の日アワード・エピソード部門」は、昨年第4回を迎  
えました。まだ歩き始めたばかりですが、一年一年  
応募数は増え、2020年は408作のエピソードが寄せ  
られて、確実に成長していることを実感しました。  
408点の作品は2020年の社会を反映して、「いのち」  
をテーマにしたエピソードが多くみられました。

昨年も大々的に授賞式を執り行う予定でしたが、  
コロナ禍においてはいのちを守ることを最優先に  
して大きな会場における式典を見送り、社会的距離  
を保ってSNSでの授賞式開催の運びとなったの  
です。

1作品1作品に熱い想いや心温まる想いが詰め込  
まれていて、「笑顔賞」に値する作品も、「絆賞」にふ  
さわしい作品も、「元気が湧く賞」に適した作品も多  
くみられ、選考では何度も作品を読み返しては、  
メールや電話、リモートでの議論が重ねられまし  
た。そうして厳正な審査を重ねた結果、絵本の日ア  
ワード2020授賞作5作品が決定し、授賞式を「絵本  
の日」当日の11月30日にSNSで公開しました。こ

## 手にするときは！

FUKUOKA 2020 エピソード

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

の授賞式の模様は、一年間どなたでも、どこからでもご覧になることができます。

それでは、絵本の日アワードin FUKUOKA 2020 グランプリ作品を発表いたします。



## 第4回 絵本のエピソード・グランプリ！

絵本の日アワードin FUKUOKA 2020

グランプリ 小山 夕実さま(千葉県)

絵本『おばあちゃんがいるといいのにな』



私は母の顔を知らない。幼い頃「家庭の事情」で母はいなくなったらしく、私の母は祖母だった。祖母はまるで本当の母親のようにお世話をしてくれ、私に色々なことを教えてくれた。そしてとても厳格だった。

幼稚園から帰るとスケジュールが組まれていて、5歳児らしからぬ生活だったように思う。習い事ではうまくできていないと出来るまでやり直し。お勉強は小学生と変わらない内容を滾々と教え込まれ、身の回りのことは極力自分で管理する。折り紙やあやとりと一緒に遊んでくれたが、それも教育の一環だったのだろう、おままごとなどで遊んでくれることはほとんどなかった。

ただ、そんな祖母が優しい顔、優しい声で語りかけてくれる時間、絵本の時間が私は大好きだった。祖母の膝に座り、じっとお話を聞く。桃太郎、かぐや姫などの昔話や、どこから持ち出したのかわからない古びた絵本、ご近所さんからもらった絵本。決して新しくはないが、沢山のお話を聞かせてくれた。その中でも鮮明に覚えている絵本。その絵本の後に、祖母は涙を流した。

絵本の内容は、優しいおばあちゃんと過ごした日々

『おばあちゃんがいると

いいのにな』

松田素子作 石倉欣二 絵  
(ポプラ社)

や最期の時を、主人公である孫が振り返り、その優しさ、温かさを再認識するというもので、当時の私には「孫との別れを思って悲しくて涙が出ちゃったのかな。」くらいにしか祖母の気持ちを量ることは出来なかった。

そして、そんな祖母も私が小学3年生の夏、息を引き取った。祖母は最後に話したときに、私に言った。「優しいおばあちゃんじゃなくてごめんね。」この一言で、私はあの時の涙の意味を理解できた気がした。祖母は、本当は「優しいおばあちゃん」でいたかったのだ。でも、私が「あの子、おばあちゃんが育ててるから」と後ろ指をさされないよう、祖母がいなくても強く生きていけるよう、決して甘やかさなかった。

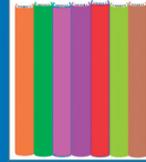
祖母は私にとって「世界一優しいおばあちゃん」であったことを教えてくれたこの絵本に、感謝している。



## “いのちへのまなざし” きらめく絆

「絵本のエピソード・グランプリ」とは、内容、表現に最も優れ、人の心を動かし、社会を豊かにするとの「私たちの「願い」」を託して、選ばれた作品です。

受賞者の小山さまのエピソードは、親代わりのおばあさまとお互いを思いやる心がとても強く、永遠の絆がにじみ出ています。一緒に暮らした幼少期は5～6年間くらいだと思われませんが、今現在でもおばあさまと共に生きていくことが伝わってきます。



それは、お二人の間に一冊の絵本が強く根付いているからでしょう。絵本を介して親子(家族)の絆を深め、また心の奥深くの本音を絵本に代わって昇華してもらっていたおばあさまは、きっと絵本のチカラを感じていて絵本にチカラをもらっていたように受け止められるのです。

お二人の絆を強く紡いだ絵本『おばあちゃんがいるといいのにな』のテーマは、「家族の絆」、「健康」、「老い」、そして「生と死」です。グランプリに輝いたエピソードには、絵本のテーマと同じメッセージが詰まっているのです。何より、私たち読者の心に響いたのは、おばあさまが愛情をこめて育ててくださった「生きる力」をしっかりと蓄え、なお高めている小山夕実さまの“いのちへのまなざし”です。

「生きる力」を発信するメッセージ性の高いグランプリ作品を、今の世にこそ世界中の人々に伝えたいです。SNSのチカラで絵本のチカラをいま拡散して、どこかの国の、誰かの「生きる力」となるよう願っています。



### 「絵本のチカラ」ってやっぱりスゴイ！

『おばあちゃんがいるといいのにな』のテーマと重なり合うグランプリ作品には、もうひとつ絵本とダブって見えることがあります。絵本のおばあちゃんと、小山さまのおばあさまがとても似ていて、その存在の大きさを感じるのです。絵本のおばあちゃんは、誰にも代えがたい安心感を孫の「ぼく」に与えています。それは小山さまにそのまま重なって、今なお絵本によって安心感を与えられているように感じるのです。ここにも、「絵本のチカラ」をみることができのです。おばあさまを介在するからこそ發揮した「絵本のチカラ」です。

「おばあちゃんがいるといいのにな」とつぶやく「ぼく」のひと言が、そのままタイトルとなった絵本はそれだけで、おばあちゃんへの愛情がぎゅぎゅ詰まっています。

「優しいおばあちゃんじゃなくてごめんね」と最後に言ったおばあさまのひと言は、絵本を間にして孫娘と祖母の気持ちをひも解き、お互いの根底にあった相手を慈しむ心を開花させたほどに家族愛にあふれています。小山さまのエピソードにタイトルをつけるなら、「世界一やさしいおばあちゃん」でしょう。



### 絵本作家に目をやると…

『おばあちゃんがいるといいのにな』の作者名をみて、うなずいている方も多いと思います。松田素子氏といえば、夫は皆さまと同業者で歯科医院を営んでおり、その医院待合室に大量の本を持ち込んで、小さな図書室「まつたけ文庫」を開設した努力と実行の人なのです。広島県出身の松田氏は、結婚とともに山口県美和町に移り住むのですが、町に書店がないことに驚き、「地域の子どもたちに本のある遊び場を」との思いで、43年前に文庫を開き、地域に愛される存在となっています<sup>2)</sup>。

文庫運営者の顔は、松田氏の数ある肩書のひとつに過ぎません。元々は、今年創立85周年を迎える偕成社で「月刊MOE」の創刊に携わり、編集長を務めた経歴を持ちあわせています。退社後はフリーランスとして絵本を中心に300冊以上の本の誕生に関わってきた編集者で、まど・みちを画集『とおいところ』や、『まどさんからの手紙 子どもたちへ』等々を編集者として手がけているのです。



『まど・みちを画集とおいところ』  
まど・みちを著  
松田素子 編(新潮社)



また、長谷川義史氏やなかやみわ氏など、売れっ子となった多くの作家のデビューにも編集者の立場で立ち会ってこられた、出版業界では功績のある人物です<sup>3)</sup>。

## いまここにある“いのち”を感じて

童話作家・絵本作家「松田もとこ」では、『おばあちゃんがいるといいのにな』の他にも、『おじいちゃんは106さい』、『ふくふくろう』、『いればのガタくん、そらとんだ』など「いのちの絵本」を多数手掛けている出版業界のスーパーウーマンです。

このスーパーウーマンは創作絵本だけではなく、壮大な科学絵本も生み出しています。2017年に国立科学博物館で開催された「絵本でめぐる生命の旅」展でも展示紹介された『ながいながい骨の旅』は、生命誕生から進化の過程を「骨」に焦点を絞り込んだ、新しい「せいめいのれきし」です。その発想は巧みで、屋久島が舞台の『わたしは樹だ』を「はじめてのホリスティック絵本」と謳っています<sup>4)</sup>。

日本ホリスティック教育協会の小森伸一氏によると、「Holisticとは、全体、関連、つながり、バランスなどの意味を含む言葉で、自然と人、人と人、個と集団、部分と全体、そして、自分自身のなかでさえも、あらゆるものがつながりあいながら、いまここにある、生命、私たちなのです」と説明しています<sup>4)</sup>。何千年も立ち続けている樹が自らのいのちを語るお話は、社会生活が変わり、いのちと向き合う機会が増えた今、すべての人の「生きる力」となる絵本です。

『わたしは樹だ』  
松田素子 文 nakaban 絵  
(アノニマ・スタジオ)



さらには、海外の芸術性の高い絵本を日本に届ける活動にも取り組んでいて、地球環境へのメッセージがこめられたフランスの美しい仕掛け絵本『ナマケモノのいる森で』(ソフィー・ストラディ 文、KTC中央出版) など翻訳者の顔をももつ、敬意を払うべき編集者・松田素子氏なのです。

## 絵本のチカラは、生きるチカラ

「いのちには、はじまりと終わりがあって その間を“生きている”という」<sup>5)</sup>。

絵本の日アワード2020グランプリ作品と、その思い出の絵本は「いのちの終わり」を体験し、かけがえないいのちの分かちあいが成されています。私たちはいま、「いのちの『始まり』と『終わり』の間を生きている」<sup>5)</sup>瞬間にいて、人と人とのつながりや自然体験、勉強、そして絵本によって「生きるチカラ」を養っているのです。これらの体験をしっかり重ねて、子どもとも大人とも「生きること」と「いのち」の大切さを分かちあい続けましょう。

子どものころ感動した絵本。ずっと大切にしている絵本。お子さんと一緒に笑いあった絵本。ひとりで涙した絵本。忘れられない思い出の絵本。人にはそれぞれの「思い出の絵本」という宝物があるでしょう。あなたが出会った絵本との「思い出のエピソード」は、人の心を動かし、感動を生み、社会を豊かにすると、私たち医療法人元気が湧くは信じています。

絵本の日アワード2020グランプリ作品は、それを証明してくれました。グランプリに輝いたエピソードの放つ「絵本のチカラ」がどんどん拡散され、社会を豊かにするものだと信じています。



### 文献

- 1) 総務省：インターネット上の誹謗中傷への対策，総務省HP <https://www.soumu.go.jp> 2020年9月1日
- 2) 松田もとこ：本と温もりのある場所「まつたけ文庫」，広報いわくに「すまいる」Vol.119, 2019年3月1日号, p.6, 2019.
- 3) 松田素子 編：対談集 絵本のこと話そうか, KTC中央出版, 東京, p.465, 2018.
- 4) 松田素子 文, nakaban 絵：わたしは樹だ, アノニマ・スタジオ, 東京, 2014.
- 5) プライアン・メロニー作, ロバート・インゲペン絵, 藤井あけみ訳：いのちの時間, 新教出版社, 東京, 1998.